

シェアにのみや（5月11日）

意見交換（グループワーク）：テーマ「認知症施策」

参加者 16 名

◆認知症への町民の理解・相談

- ・町民に認知症の情報を伝え続ける。
- ・家族ならともかく「認知症かも」と思う他人がいても、やれることが分からない。
- ・相談窓口が社協か町か分からない。
- ・認知症がまだ特別視されている。地域で暮らす日常の中にあるという情報発信を。
- ・困ったときにどうするべきかの広報が足りていない。
- ・「誰でもなる」ことを学ぶ場が必要。
- ・子どもが小学校で認知症を学んだが、親も学ぶ場がほしい。

◆周りの認知症者の把握

- ・どのように町が、認知症かもしれない人を吸い上げるのか？民生委員の役割なのか。
- ・民生委員をしていて、個人情報への壁を感じる。結局は「家族が町へ相談し、民生委員へ報告」という流れがないと、つなぐ役割を果たせない。
- ・健康診断の項目にアルツハイマーを入れてはどうか。

◆本人の認知症の気づき・受け入れ

- ・病気から認知症になる場合もあることを本人に自覚してもらうのも必要。
- ・どう本人に伝えるか、どう専門家に見せるのが難しい。
- ・本人への告知は良いのか、悪いのか。
- ・認知症になる前にどう向き合うか知っておくことが重要。
- ・認知症の家族に運転免許返納をさせたいが、納得させることができない。

◆認知症発症者への対応と家族への支援

- ・地域の見守りや情報共有が必要。
- ・認知症家族会になかなか入っていけない。
- ・介護する人の受け皿として話をする場、認知症カフェが欲しい。
- ・認知症が重くても、介護レベルと合わないことがあって大変。
- ・初期集中支援チームが広まってない。
- ・徘徊を見つけやすくするために、小学校区ごとに色分けした紐で名札を付けては。
- ・今後は、GPS や IC チップなど行政でやって欲しい。
- ・監視モニターを活用しては。

◆認知症予防の対策・施策

- ・予算は集中的かつ重点的に。こま切れはだめ。
- ・認知症にならない活動を町や地域ですべき。
- ・一人住まいで認知症になったときが心配。
- ・一人住まいの高齢者の交流の場が欲しい。

- ・高齢者の行き場が必要。図書館は閉館日が多い。
- ・男性が外に出やすくするために、共同作業（公園掃除）など、つながりづくりを多くする。
- ・地域の集会所の有効活用。

◆福祉の組織一般について

- ・社協と町の仕組みを分かりやすく。
- ・地域の組織・実態を把握すべき。
- ・「地域包括支援センターのご案内」というパンフレットが分かりにくい。
- ・地域と人を繋げるとき、例えば「老人会」など名前のハードル、古い組織のハードルがあって既存の組織では難しい。防災と繋げるなど、時代で変化を。
- ・冷蔵庫やトイレなどに貼れるような物（マグネットタイプの案内）を作ってほしい。また民生委員が訪問するために、そういうものをきっかけにしたい。